

氏名	中 原 進之介
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1114 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和 5 5 年 6 月 3 0 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	犬頸髄後方圧迫による頸髄循環について — 酸素電極法, 血管鑄型法による実験的研究 —
論 文 審 査 委 員	教授 寺本 滋 教授 大内 弘 教授 折田 薫三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

頸髄圧迫による頸髄麻痺の発生, 進展に血管系の変化がいかに関与しているかを究明し, 2カ所圧迫時の血行動態の変化について検討するために本研究を行った。

雑種成犬 9 1 頭を用い, 狭窄率 20%, 40%, 60% 3 段階に分けて後方より単一および 2 カ所圧迫を 1 時間加え, 酸素電極法による頸髄酸素濃度の測定, microangiogram 所見, 血管鑄型法による走査電顕観察について検討した。頸髄酸素濃度は単一圧迫のみでは低下しにくい, 2 カ所圧迫では軽度の圧迫でも著明に低下した。血管鑄型法では, microdissection を加えることにより microangiogram では観察しえない脊髄内微細血管まで十分観察可能であり, 圧迫による灰白質毛細管, 白質, 灰白質境界部微細血管の変化を知りえた。高度単一圧迫では, 血管破壊が著明で直接の血管損傷のみでも障害が進展し, 非可逆性変化をきたしうると推察され, 2 カ所圧迫では軽度の圧迫でも著明に変化し, 阻血およびうっ血像を認めた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は頸髄圧迫による頸髄麻痺について実験的に研究したものであるが, いまだ確立されていない頸髄麻痺の発生機序, 脊髄血管系の変化について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。